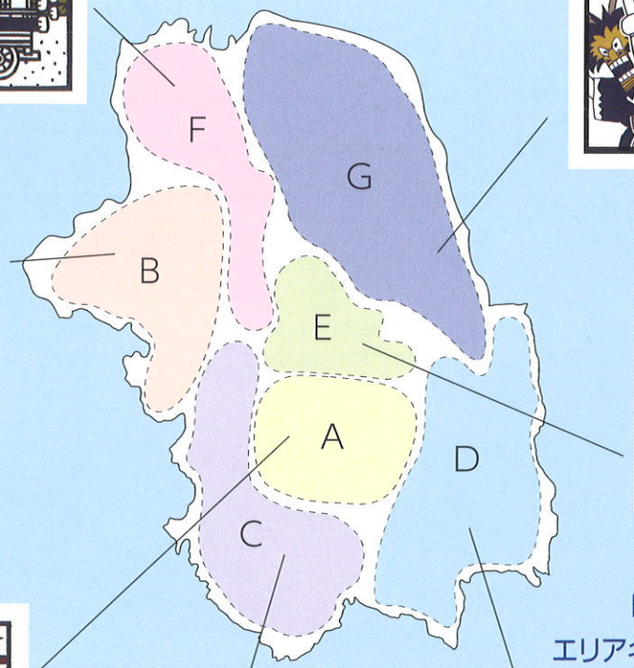
文化財表示板について

宇都宮市では、歴史や文化財を次世代に伝えるとともに、歴史の薫りのする魅力あるまちを創造するために、市内を7つのエリアに分け、文化財表示板を設置しています。

F 日光街道沿い地区
時代を刻む道・日光街道

G 河内・上河内地区
奥州道中と伝統文化の里

B 大谷地区
石の里



E 北山・長岡地区
まほろばの里

A 市中心部地区
宇都宮の軌跡

C 根古谷台・市南部地区
古代史の回廊

D 市南東部地区
エリア名称：『武士の夢が原』

鬼怒川を臨む飛山城と、中世の武士を図案化したものです。

◎説明サイン
文章や写真・絵図で、指定文化財や名所・旧跡、旧町名の由来について紹介しています。

◆誘導サイン
コース沿いの見どころの近くや道路が分岐する付近に立っています。矢印と文字で行き先を案内します。

（平成27年5月）

オス

メス

クロコムラサキおよびその生息地　■　C・3

クロコムラサキは、コムラサキ（タテハチョウ科）に遺伝的に現れる黒色型です、幼虫はヤナギ類の葉を食べて成長し、成虫になるとヤナギ・クヌギなどの樹液に集まります。

全国的にも生息する範囲は限られていますが、鬼怒川右岸の柳田緑地内には、幼虫の食料となるヤナギが多いほか、越冬地として適当な条件を具えているため、生息しているものと考えられます。

（昭和48年７月17日　市指定）

鉄造阿弥陀如来立像【大乗寺】　■　C・4

仏像の材質は一般的に木や銅であり、鉄製の仏像は珍しく、鎌倉時代に多く造られました。

この像も鎌倉時代に制作されたもので、同じ鋳型から造られた仏像が埼玉県・長野県でも発見されています。黒くなっているのは、火災に遭ったことがあるためと思われます。　（平成7年８月22日　県指定）

※拝観にはお寺の許可が必要です。

芳賀氏（清原氏）累代の墓碑【同慶寺】　■■　C・4

芳賀氏は本姓を清原氏といい、飛山城の城主でした。同慶寺を菩提寺としたため、累代の墓碑が残されています。

墓碑は主に五輪塔ですが、造られてから長い年月が経過したため、原形を保っているものはほとんどありません。中世の武士の墓所の形態を偲ばせるものとして貴重です。　（昭和33年７月21日　市指定）

木造訶利帝母坐像【同慶寺】　■■　C・4

訶利帝母（訶梨帝母）は、一般的に鬼子母神とも呼ばれ、安産や保育の守護神として尊崇されています。

この像は、寄木造りの技法で制作されており、玉眼がはめ込まれています。同慶寺境内のお堂に安置されており、江戸時代初期に造られたものと考えられます。　（昭和50年３月25日　市指定）

※拝観にはお寺の許可が必要です。

銅鐘【同慶寺】　■■　C・4

享保元年（1716年）に、同慶寺住職が計画立案し、近隣の村人の寄付を受け、宇都宮の鋳工・戸村将監藤原定国が鋳造したものです。

現在使用中でありながらほとんど無傷であり、その銘文は当時のお寺と檀家の関係を知るうえで貴重な資料となっています。　（昭和33年７月21日　市指定）